

いつも大変お世話になり、ありがとうございます。

ここ数年で外国人観光客が目に見えて増えました。これは政策の効果によるものも大きいですが、一方で、京都府民の生活に支障をきたす場面が多くなっています。民泊問題をはじめに、バスの混雑や、行儀の悪い観光客（これは日本人観光客もふくむ）がゴミを散らかすことに対して、怒りの声があがっています。

観光政策としても「良質な観光客が減った」「外国人は、伝統的なお土産物を買わない」「食事もコンビニで済ませている」という不満の声があがっています。

**観光で経済を活性化することは結構なことです。しかし、これで府民生活が圧迫されたり、観光の質が低下しては本末転倒です。府民と観光客とが共存できるための交通網の整備などの政策は必須でしょう。**

そもそも観光に活路を見出さざるを得ないのは、京都も人口減少により経済規模が縮小しているからです。しかし、「人口の減った分を、外国人で補う」というのは、少し安易に過ぎるのではないのでしょうか。まずは、私がかねてから主張している家族政策（少子化対策）の強化で、人口減少に歯止めをかけるべきです。同時に、これも昔から主張しているのが、京都へ首都機能を全面的にもってこることです。

直下型地震が予測される中で、東京に政治、行政、金融経済の機

**能が集中していることは、国家の危機管理からも問題です。これについて、12年前に、私は当時の谷垣財務大臣に対し「首都機能を京都に移転すべきだ」と予算委員会で提言をしています。**

同大臣は「国会の中で、国会機能を移転するときの議論の最後の“座長とりまとめ”という中でも、今後、分散移転あるいは防災、とりわけ危機管理機能の中核の優先移転、こういうことに調査研究をしなければならぬ、こういうことになっておりますので、やはりこれはやらなきゃいかぬことだろうと思います。その際に、北神委員に触発されて申すわけではありませんが、関西にはいろいろなものが集積していることも事実でございますので、そういったことも、私は関西出身の議員としては十分視野に入れる必要があるのではないかと考えているわけでございます。」と前向きに答弁しています。

文化庁をかわきりに、他の省庁の一部も京都に移すだけでなく、もう一つ国会議事堂も設置して、秋の臨時国会を京都で開催する。いざという時に備えて、政治や行政機能を分散しつつ、京都の活性化を図るのです。一石二鳥です。京都には千年の都の歴史があり、御所、迎賓館、国立国会図書館があります。また、第二の経済都市である大阪が隣にあり、関西空港もあります。むやみやたらに外国人に頼るのではなく、「都の復活」という大きな構想を政治が具体化し、推進することこそが王道ではないでしょうか。